

# THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2017~2018年度 No.227

## 12月 月報

那須クラブ会長 主題  
地域につなげ那須ワイズ



強調月間：EMC/M  
祈りの鐘(12/8)



11月(お茶会を通じて日本文化を学ぶ)例会 11月23日 於：遠山崇定師匠邸

2018~2019年度 主題

国際会長：(IP) Moon Sang Bong (韓国)  
「私たちは変えられる」

アジア地域会長：(AP) 田中 博之(東京多摩みなみ)  
「ワイズ運動を尊重しよう」

東日本区理事：(RD) 宮内 友弥(東京武蔵野多摩)  
「為せば、成る」

北東部長：涌澤 博(仙台青葉城)  
「チャンス到来 われら北東部から世界へ」

クラブ役員 事務局

会長：河野 順子  
副会長：村田 榮也  
書記：藤生 強  
会計：村田・鈴木  
担当主事：藤生 強  
ブリテン：田村・村田

11月例会データー(出席率：100%)  
在籍者 6名  
例会出席者 5名 メネット 2名  
ゲスト 2名 ユースリーダー 4名  
メイクアップ 1名

今月の聖句  
学者たちはその星を見て喜びにあふれた。  
マタイによる福音書2：10

11月 Happy Birthday  
なし

## 巻 頭 言

村田 榮

### つれづれなるままに

とちぎYMCA 40周年感謝会が、11月17日YMCA体育館で開催され、参加しました。とちぎYMCA設立の思いは、先月の原田時近ワイズの巻頭言で多くのことが伝わってきました。私とさくらんぼう幼稚園との出会いについての思い出を綴ってみたい。私に洗礼を授けてくださった牧師は、とちぎYMCA 40年誌の中に出てきます故野木源治郎先生です。私が洗礼を受けたのは、日本キリスト教会神戸布引教会でした。20年程前に野木先生より、神戸にあったさくらんぼう幼稚園で豊田姉妹との出会いの機会を作ってくださいました。その時に、宇都宮に作られたさくらんぼう幼稚園のことを話してくださいました。当時は、日本キリスト教会小山教会の牧師で、栃木教会の牧師とともに、宇都宮に日本キリスト教会の教会建設を夢見ておられました。教会建設には幼稚園活動が一番ふさわしい活動であるとして、豊田姉妹に白谷の矢を立てられ、宇都宮市内をくまなく散策し、現在のとちぎYMCA・さくらんぼう幼稚園のある土地が、これからの宇都宮市の発展と交通事情を考えて決められたとのことでした。豊田姉妹は、幼稚園設立にあたり、教会建設のための土地もその園舎のそばに確保されと聞きました。キリスト教主義のさくらんぼう幼稚園が設立された。それからの活動の多くは語られませんでした。大変であったと思います。しかし、とちぎYMCAが引き継がれた時には地域に愛される幼稚園であったとお聞きしました。豊田姉妹が神戸に来られるにあたり、幼稚園をキリスト教主義の団体に引き渡したいとの願いで、神戸YMCAの今井総主事の紹介で東京YMCA斎藤総主事を紹介していただき話が進んだとお話を聞きました。とちぎYMCA記念誌を読みながらそのことを思い出しました。

12月8日にアジア学院の卒業氏に参加しました。駐日ウガンダ共和国特命全権大使のベティ・グレース・アケチーオクロ氏をはじめ多くの来賓を迎えて行われなした。荒川校長の式辞、大柳副校長の2018年研修報告を聞きながら、9か月間の研修の大きな成果を知ることができました。故高見敏弘先生が設立されたアジア学院の精神が脈々と受け継がれ、サーバントリーダー（人に使える指導者）養成が行われています。卒業証書授与では、学生一人の自信にあふれた笑顔が印象的でした。9か月前の入学式では、学生の不安な気持ちが伝わってきたことを思

い出します。私たち那須ワイズメンズクラブも微力ながらもアジア学院の活動に協力していることを誇りに感じました。9年前に姫路から那須に引っ越しするにあたり、日本キリスト教会加西伝道教会の前牧師であり、私たち夫婦を指導してくださった、故吉田完治先生より、アジア学院の活動に協力するようと言われておりましたことを思い出しました。本来であれば、荒川校長の式文全文を掲載したいところですが紙面の都合上の一部を掲載させていただきました。お読みいただければ幸いです。

### 11月(お茶会を通じて日本文化を学ぶ)例会

会長 河野 順子

日時: 2018年11月23日午後2時から4時

場所: 遠山崇定師匠邸

参加者: ゲスト1名、リーダー4名、YMCAスタッフ1名、ワイズメン・メネット7名

今年で3年目になる茶道体験でした。メンバーの都合で夕方の例会であった昨年までから今年は午後2時からと茶道の先生からのご注文でした。なぜなら、茶道の一端でも体験してもらおうとの配慮でした。お茶を頂くまでの待ちかたと頂くときの作法を少しづつ学べるということです。

そしてこの日を、「炉開き」の日にしてくださいました。「炉開き」とは、「茶人の正月」といわれているそうです。亥は陰陽五行説で水にあたり、火災を逃れるとされたため、「亥の月の亥の日から火を使い始めると安全と言われていました。茶の湯では「亥の子」の日に夏向けの「風炉」をしまい、炉に切り替える「炉開き」がおこなわれます。これが炉開きで、この日は初夏に寝かせておいた新茶を初めて使う「口切り」があり、亥の子餅を頂きます。

「口切り」とは、師匠のお宅の床の間に両手で抱きあげるくらいの壺があり、その中に寝かせておいたお茶が入っていて、ひもで結ばれていましたが一度この紐を解いたら再び結べないそうです。この日にこの壺のお茶を使い始めることだそうです。

亥の子餅とは、その年に収穫された新米で作られ、その年に収穫された小豆でぜんざいとしていただきます。お茶を頂いた後に、程よい甘さのぜんざいを頂きました。また、掛物、お花も一変し、炉開きに見合った掛物になるそうです。

この日の掛物は、「開聞落葉多」（門を開けてみると一面に葉が落ちた）という（からりとすべてを捨て去ったという境涯）ものでした。お花は、5センチ玉の白椿のつぼみでした。

お菓子には、栗の裏ごしで舌触りの良い岐阜の名菓

でした。(当日、亭主の一番弟子古川さんの差し入れでした)。

さて、客の私たちは、2班に分かれ6人一組で腰掛け(庭に設けられた待合)で、藁で出来た円座に腰掛けて待ちます。円座の重ね方や置き方なども学びましたが、覚えられませんでした。お迎えが来られて、手水で手を清め茶室に入りました。炭で湯を沸かしていますが、この炭のおこし方にも形がありました。また、炭は前日に水で洗って火花が飛ばない準備をしておいたそうです。お茶の頂くことは、昨年も学びましたが、今回は畳と茶碗の位置や客の手の置き方、隣へ譲る時の作法を学びました。また、タイミングをみての亭主へ質問することも難しかったです。リーダーとは、班が違ったので茶席の様子は分かりませんが、ぜんざいは人気でした。この時は亥の子餅たる所以を知らずに頂きました。リーダーの感想が聞けそうですが、次回が楽しみです。遠山先生、古川さん、それを取り持ってくださいました。私たちの緊張をほどいてくださった暁美さんありがとうございました。

出典—<https://ikezuna-omotase.com/robiraki/>

《参加をしたユースリーダーの感想》

荻原亜実(さくらリーダー)

今回初めてワイズのお茶会に参加させていただいて、リーダー同士だけでは経験できない貴重なお話を沢山伺うことができ、とても有意義な時間となりました。また、来年もお邪魔させていただけたらと思います!今年、快く私達の参加を受け入れてくださったワイズメンバーの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

石井千里(ケイティリーダー)

おいしいお茶やお菓子をいただきながら、茶道のお話も教えていただきました。茶道に触れたことはなかったので、新しい学びばかりで、とても良い時間でした。また、ワイズの方々から色々なお話がきけて、今後のYMCAの活動に、より熱心に取り組もうという刺激にもなりました。

小菅乃愛(によろリーダー)

茶室で茶道をするのは初めてで、とても貴重な経験だったと思います!ベテランのお茶の先生に優しく指導して頂いて、掛け軸の読み方からお棗やお茶杓の問答のことまで分かりやすく教えて頂きました。正座が苦手な知識も全く無い私も、純粋に楽しむことができました。お抹茶と和菓子美味しかったです!

立川 祐紀乃(くるむリーダー)

今回参加させていただいたのが私にとって始めて

の茶道でした。そのため、何も知らない状態でしたが、1から丁寧に作法を教えていただけたので、とても勉強になりました。お茶と栗きんとんもお雑煮もすごく美味しかったです。さらにYMCAの歴史も知ることができたので、良い経験になりました。

## 12月第2例会(役員会)報告

日時:11月30日(金)午後6時30分~

場所:ココス西那須野乃木店

出席者:田村副会長、村田副会長、藤生担当主事、平山主事、田村メネット

協議事項

- 11月例会(お茶会を通して日本文化を学ぶ)の反省  
リーダーの参加もあり、良い体験ができました。遠山宗定師匠に感謝です。
- 12月(クリスマス祝会)例会  
12月14日(金)午後6時から日本キリスト教団西那須野教会で行う。養徳園を招待する。  
受付、鈴木、聖書朗読・祈祷、原田、奏楽、木村真貴子姉、1部(キャンドルサービス)司会、村田、メッセージとお祈り、潘焯旭牧師、第2部(祝会)司会、河野、食前の祈り、原田メネット、ゲームと歌、平山主事、藤生、田村、食事は田村有希子さんに依頼。お礼:潘牧師、木村奏楽者、田村有希子さん、3,000円。会場費、2,000円  
用意するもの、キャンドル(河野)、じゃがいの・大根(村田)、紙皿等(村田)、子供プレゼント(村田)、1品持ち寄り、会費1,000円。
- 1月(新年例会)例会の件  
1月25日(金)午後6時より、西那須野岡重で行う。会費は、3,500円。担当田村副会長。
- 第2回北東部評議会の報告  
藤生書記よりあった
- 12月ブリテン発行について
- 1月役員会(第2例会)について、  
1月5日(土)午後1時30分よりココス西那須野乃木店にて行う。
- アジア学院卒業式出席の件  
12月8日(土)午後1時30分から 田村、村田が出席する。
- シイタケコンブの購入について  
計画的に行うこととし、できるだけ購入個数を決めるようにする。次は、1月例会時期とし、各自の個数を確認する。

## 今後の予定

### ・12月役員会（第2例会）

日時：11月30日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：11月例会（茶道を学ぶ）の反省、12月例会（クリスマス）12月号ブリテンの発行、YMCA報告等。

### ・12月例会（クリスマス祝会）

日時：12月14日（金）午後6時～

場所：日本キリスト教団西那須野教会

会費：1,000円

### ・アジア学院卒業式

日時：12月8日（土）午後1時30分～

場所：アジア学院

### ・1月役員会（第2例会）

日時：1月5日（土）午後1時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：12月例会の反省、2月例会（CS公開講演会）1月号ブリテンの発行、YMCA報告等。

### ・1月（新年例会）例会

日時：1月25日（金）午後6時～

場所：西那須野岡重

## 旧西那須野（那須西原）の縁と水（第68回）

田村修也

82 森 時之助：六十国立銀行頭取。83 村上光雄：六十銀行。84 梁瀬昌幸：六十銀行（元宇都宮県第属。85 勝 海舟：勝正三位殿（伯爵）。86 杉孫三郎：杉 内蔵頭殿（子爵）。87 奈良原 繁：奈良原正五位殿（男爵）。88 藤波言忠：藤波従四位殿（子爵）。89 河田景与：河田従四位殿（子爵）。90 中山高明：内務卿秘書官、中山少書記官殿。91 川村清雄。92 大久保忠恕：元栃木県役員。93 神山半三：印南文作生家の当主。94 保科近意：旧会津藩家老西郷頼母近意。95 高野盛三郎：（保晃会関係）。96 和田維四郎：牛込区市谷佐田町。97 鷺尾隆聚：京橋区弓町、鷺尾正四位（伯爵）98 大鳥圭介：従四位、白金上三光町、元元老院議員（男爵）。99 田辺太一：従四位、一番町、外務大書記官。100 宮本小一：従四位、小石川、後、貴族院議員。101 柴原 和：従四位、駿河台、元老院技官、後、

山形県令。102 高橋一勝：浜町、東京代言人組合会長（株主）。103 勝田 某：神田三河町。以上103名が那須原大水路開鑿賛成員、御指令報告人名帳に記載されてある方々です。

これを見ますと、有栖川宮、三条実美、山県有朋、伊藤博文、西郷従道、大山 巖、佐々木高行、山田頭義、松方正義、井上 馨、品川弥二郎、三島通庸、大久保利和、岩崎久弥、更には、勝 海舟、西郷頼母、大鳥圭介に至るまで、幕末から明治維新に至る歴史ドラマの主人公ともいえる錚々たる人物が列挙されていることに驚きます。この人名帳に載っていない政府要人はいないのではないかとさえ思える程、まさに壮観です。印南文作さんと矢板 武さんのご両人が、よくもこれほどの高位高官の方々を訪問し、そして賛同を取り付けるに至れたことの裏には、わたしたちの想像をはるかに超えた、並々ならない、文字通り命がけの努力があったことが、身に迫ってきます。資料に「文作も武も華やかな経歴を持つ栃木県の名士であった。しかし政府要人から見れば、たかが一介の田舎の名士に過ぎないであろう。その『一介の名士』がなみいる政府高官を堂々と訪ね、大水路開鑿を認可させたのである。ここに、文作と武の抜群の行動力・政治力を鮮烈に見ることができよう」と記されているのは、全くその通りだと感動してやみません。

ここで、エピソードとして以前に触れました「聚塵亭異聞」の全文を紹介しておきたいと思います。この資料は再掲いたしますと、当時私は栃木県林務観光事務所長補佐として栃木県塩谷庁舎に勤務しておりました。そして1990年8月31日の昼休みに、塩谷庁舎のすぐ近くにある矢板 武記念館（歴代矢板家の住宅）を訪問した際、たまたま帰郷していた当主の矢板 玄氏から拝領したものです。矢板玄氏は12代武、13代寛氏、14代玄蕃氏と続く16代目の当主です。著者は印南正一氏で、印南文作さんの長男が正太郎、その長男が正雄、と続く末裔です。印南文作さんの没後、那須開墾社2代目社長の矢板 武さんを中心に関係者が、印南文作さんを永く顕彰するために建立した烏ヶ森神社の宮司をされていた方は隆一さんで、文作さんの孫です。隆一夫人は印南ふみさんと言いまして、私の母校である狩野村立三島中学校の音楽の教師をしておりました。私は音楽部の部長をしていまして、ふみ先生には大変お世話になり、西那須野駅近くのご自宅には、何度もお招きいただきました。隣接して、品川弥二郎の子孫である品川家や川上町長の邸宅がありました。西那須野幼稚園の教師であった独身時代の



私の妻も、ピアノの指導を受けています。またふみ先生は歌人でもありました。戦後すぐにアララギに入会し、総師土屋文明を生涯の師と仰いで、多くの作品を残しました。産経新聞栃木歌壇の初代選者をされています。烏ヶ森神社の境内には、ふみ先生が夫君隆一宮司を詠った「丘の社に 夫鳴らず初太鼓 曉間に 太くひびくも」という歌碑が残されています。それでは、次号から4回にわたって、「聚蘆亭異聞」を紹介させていただきます。(以下次号へ)

## 西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園  
園長・理事長 福本 光男

「子ども達の未来に、

受刑者は2年分の年収を捧げた」

イエス様誕生の喜びは、当時のユダヤ王ヘロデではなく、地位も、財産も、家もなく、そして、占領国のローマからは人(徴税の対象外)としても見られていなかった羊飼いに最初に伝えられたと聖書には記されています。それは、イエス・キリストの生涯が、疎外された人、当時の(政治的・宗教的権威である)ユダヤ教が差別しても当然とした、重い皮膚病の人、そして地の民(アムハアレツ)と呼ばれる社会的弱者と共に歩まれることの預言とも理解できます。

さて、幼稚園最初のクリスマスの喜びは、12月1日(土)に黒羽刑務所内の希望する受刑者と分かち合いました。もう20数年以上続けられているこのプログラムも、2022年3月で黒羽刑務所が閉庁しますので、あと僅かです。保護者の皆様のご理解とご協力をご感謝致します。受刑者の方達は、子どもたちの歌と演技によるクリスマスのメッセージをとてもしらにしておられます。当日は、こどもたちの降誕劇とクリスマスソング、西那須野教会牧師・黒羽刑務所教諭師大下正人先生、「トリオ・フィオーレ」の皆様の演奏です。また、理解を深めていただくためにPTAから2人がご一緒下さいます。

そして、幼稚園のクリスマス会では、子どもたちと主イエスの御降誕を祝い、楽しい時を過ごしていただければと思います。総務委員、学級委員、配膳係、配膳ボランティアの皆様には大変お世話になります。

最後に、クリスマスの時期には黒羽刑務所の受刑者からの献金を思い出します。以前にも紹介させていただいています。刑務所教諭師(きょうかいし)として、2010年のある教諭で、「幼稚園の理事会は5億円の借金をして、園舎を建築することを決

断しました。県、市からは1円の補助もありません。全額の借り入れで、私は不安もあります。20年かかって返すのですから生きてないかもしれません。返せなかったら連帯保証人の私も皆さんと一緒に座ることになります」という話をしました。園舎完成後、3.11の大震災がありました。誰のけがもなく、屋根の放射能も浸透せずに流れ、園庭の汚染も最小限で済みました。そんな時、一通の現金封書が送られてきました。ある受刑者の方からでした。手紙の追伸には「心ばかりを少し同封させていただきました」。そして、「若者をあゆむべき道のはじめに教育せよ。年老いてもそこからそれることがないであろう(箴言22-6)」、「子どもたちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである(マルコによる福音書10-14)」という2編の聖書のことばが添えられていました。中には1万円札が2枚ありました。この2万円は受刑者にとってとてもすごい金額です。当時、刑務所での作業の時間給は5円から始まりました。この金額は、実に2年間分の賃金に当たりません。出所後の自立には、絶対必要な虎の子であるお金を子ども達の今と未来に捧げてくれました。とても勇気づけられています。クリスマスを迎えるにあたり、このことを思い起こし、感謝を持って新たな1年のスタートを切ります。

幼稚園の献金は、今のところ、アジア学院、エルム福祉会、フィリピンの子ども等の施設、国境なき医師団、ハビタット・ジャパン、子ども食堂、ユニセフ(ユニセフ協会ではない)、3.11甲状腺がん子ども基金、那須塩原市、大田原市等を予定しています。まだ、園児はお小遣いの習慣もないと思いますが、ご理解・ご協力を宜しくお願いいたします。職員分も加えて贈りたいと考えます。

## アジア学院だより

学校法人 アジア学院  
校長 荒川 朋子

共食

京都大学総長で霊長類学者の山際寿一氏によれば、人類が他の類人猿やサルと異なること、人類独自の進化をけん引してきたものは「食事」だという。サルはエサを挟んで向かい合うと、弱い方が手を引っ込める。サルの社会のルールは、争いの種になりやすいエサを強い方が独占し、それはそうすることで争いを避けるためだという。一方でチンパンジーなどの類人猿は、食物を分配するという。しかも弱い

方が強い方に向かって行って、食物をねだって獲得するなどということが起きる。そして強い方は力づくでその食物を奪いに行くということはないというのだ。これが人間になるともっと面白いことが起きる。類人猿よりもはるかに気前がよく、相手に求められもしないのに、食物を持って行って、一緒に食べようとする、つまり「共食」しようとするのだという。それは人間が「食べ物を共食することで、仲間と関係作りができる、仲直りや交渉の場に食物が利用できるということを知っているから」であると山際先生は言う。そして食事がそのようなことを可能にするのは、「食事を共にすることで、相手が何を欲しているのか、自分をどう見ているかがわかってくる」、つまり「共感」がそこに育まれていくからであるというのだ。

こうして人間は、家族など生物学的なつながりを持つ近親者の間だけでなく、見知らぬ人にも食事を分配して、客人をもてなしたり、様々な行事で食事を社会的な行為として使うようになる。これは人間が進化や変化とともに危険な地域にどんどん出ていったので、食物を使っていろいろな人々と結びつく必要が生まれていったからだと言われている。山際先生は、共食は、人間が長い歩みの中で獲得し、社会を作り発展させる源泉でもあり、同時に人間のコミュニケーションの重要な手段として発達していったと言っておられる。言い換えれば、共食は、人間が人間らしく、社会的な生き物として生きるために必要なことと言えるかもしれない。別の学者と一緒に食べる行為には、食べ物を配分する、仲間の食事のペースに合わせる、適度な会話をするなど、調整しなければならない「ヒト特有の暗黙のルール」があると説明している。

ところが、社会の様々な変化と共に共食の機会も減少してくる。それによって人間がばらばらになる大きなきっかけになったとも山際先生は言っておられる。そして、このような状況をアジア学院の創設者の高見先敏弘は「貧しさ」と表現する。

貧しさとは、人間があるべき姿—隣人、自然環境等、すべての被造物との間に保持すべき関係—から疎外され、また自ら疎外することです。

人間が自然や、神の被造物との関係から分離されて、自らも疎外する状況が「貧しさ」であって、自然の中で豊かないのちを仲間と共に生きる、仲間と共に育むことが、「疎外からの解放への動き」なのだ、アジア学院はそのような動きの中で、真の「豊かさ」を目指すのだと高見は言う。しかも、今の時代だけを考えてやるのではない、未来を見据えて行

うことが「共に生きること」だと言うのだ。

そして、そのような生き方の中で中心的な「共に食べる」こと、「共食」は、類人猿が人間となっていく長い過程においても、社会の形成の歴史においても源泉となる重要な行為だ。聖書にはイエス様が人々と「共に食卓につく」「一緒に食べる」シーンが何度も現れる。しかもイエス様は、特に人々から嫌われている人、社会から疎外され普通に考えたら一緒に食卓につくことなど考えられない人々と共に食事をされる。単にそばに行って話しかけるだけではなく、その人の家に入り、その人の食べているものと同じものを食べる、あるいは、自分の食べているものを分かち合う。それは神様が、私たちがどんな人間であろうとも共におられる、共に生きてくださるということ意味する。共食とは、共に生きることなのである。このことをもっと多くの人が深く捉える必要があると思う。

## YMCAだより

### 【第20回日本YMCA大会の報告】

11月23～25日、東山荘にて「第20回日本YMCA大会」が開催され、北は北海道から南は九州まで、YMCA職員やボランティアで活躍している学生、支えてくれているワイズメンを合わせて250名が集まりました。

那須YMCAからは、ぷりんリーダーが参加し、とちぎYMCA全体ではリーダー・職員・総主事・理事長合わせ16名が参加しました。

子ども、暮らし、ユース、社会貢献の4つの各テーマを所属も年齢も職種も違うグループで「対話(Dialogue)」をしました。

### 【参加したぷりんリーダーの感想】

好きなテーマを選んで、シニアユース関係なく小規模のグループを作り、問題点や解決策などを話し合うテーマセッションをしました。そこでは自分の思いを話すだけでなく、他の人の意見も聞けて、自分の考えに共感を持ってもらえたり、今まで考えたことがなかった新しい考えに触れることが出来ました。

自分の地域ではやっていない活動が沢山ありやってみたくて、YMCA内で交換留学みたいなのがあればいいのと思いました。特に地元が福島の沿岸なので盛岡やせとうちのYMCAが行っている震災復興関連の活動に興味を持ち、是非一緒に参加したいと思いました。

今回、YMCA大会は意見交換の大会と聞いてい

たので自分の考えを話せるかどうかという不安がありました。みんなあたたかくて話しやすく、話すのがとても楽しかったです。

次またこういった全国の人と話せる機会があったら、もっと自分から色々な人に話しかけてもっとたくさんの方の考えに触れ、今後のYMCAの活動や日常生活に生かしたいです！



### 【とちぎYMCA40周年感謝会の報告】

11月17日(土)晴天の下、とちぎYMCA40周年感謝会が体育館にて催されました。

感謝会には、歴代の総主事をはじめ、会員、ワイズメン、歴代のスタッフやリーダーOB・OG、現役リーダー・教職員など約200名が集いました。

懐かしの再会、世代を越えた繋がり。キャンプソングを歌う時間では、大きな歌声が体育館に響き渡りました。YMCAは多くの方に支えられている事を改めて感じさせられた1日でした。

さらに「とちぎYMCA40年誌」は、編集委員会が準備をして関係者の皆様に執筆及び情報協力をいただき完成することができました。

「みつかる。つながる。よくなっていく。」

新ブランド・スローガンとみなさまと共に歩んでいきます。



### 【とちぎYMCA・那須YMCAの12月の予定】

・12/3(月)～12/5(水) 北関東YMCA・東京YMCA合同スキーディレクター・

スタッフトレーニング(佐藤・阿久津・平山が参加)

・12/8(土)～12/10(月) 北関東YMC

Aスキーリーダートレーニング(佐藤・阿久津・平山・リーダー14名が参加)

・12/15(土) 那須英会話クラスクリスマスパーティー@那須YMCA

・12/15(土) サタデークラブ@西那須野幼稚園(カップケーキ作り)

・12/16(日) スキーキャンプ打ち合わせ会@さくらんぼ幼稚園

・12/22(土) サンタdeラン&ウォーク@宇都宮城址公園

・12/27(木) ウィンタープログラム開始